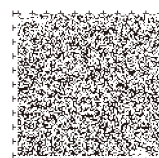


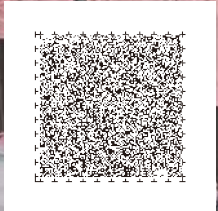


第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 大会ダイジェスト





25th Summer Deaflympics



東京2025デフリンピック

TOKYO 2025 DEAFLYMPICS

東京2025デフリンピックは、2025年11月15日（土）から26日（水）までの12日間にわたって開催された。日本における初めての開催であり、1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから100周年の節目となる、歴史に残る大会となった。

大会名称

（日）第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
（英）25th Summer Deaflympics Tokyo 2025

略称

（日）東京2025デフリンピック
（英）TOKYO 2025 DEAFLYMPICS

大会期間

2025年11月15日（土）～26日（水）（12日間）
開会式：11月15日（土） 閉会式：11月26日（水）

競技数

21競技

数字で見る東京2025デフリンピック

参加国・地域数

79 国・地域等

参加選手数

2,943 人

※2026年1月30日時点

競技会場来場者数

281,235 人

子供観戦招待数

約 50,000 人

デフリンピックスクエア 来場者数

57,168 人

メダル獲得国・地域数

54 国・地域

世界デフ新記録誕生数

53 件

※2026年1月30日時点

デフリンピック新記録誕生数

78 件

※2026年1月30日時点

参加選手の 最高年齢 / 最少年齢

84 歳 / 13 歳

手話言語通訳者活動数

241 人

（国際手話100人
日本手話言語141人）

ボランティア活動数

2,959 人

サポートスタッフ活動数

706 人

（筑波技術大学98人
協賛者608人）

協賛者数

合計 160 者

競技会場メディア取材数

2,481 媒体
3,976 人

競技動画再生数 （2025年11月27日15時時点）

3,245,533 回

SNS登録者数 （2025年12月1日時点）

X 5,350 人
Instagram 25,285 人
YouTube 36,800 人

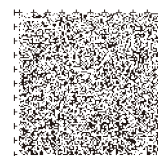
競技日程

Competition Schedule

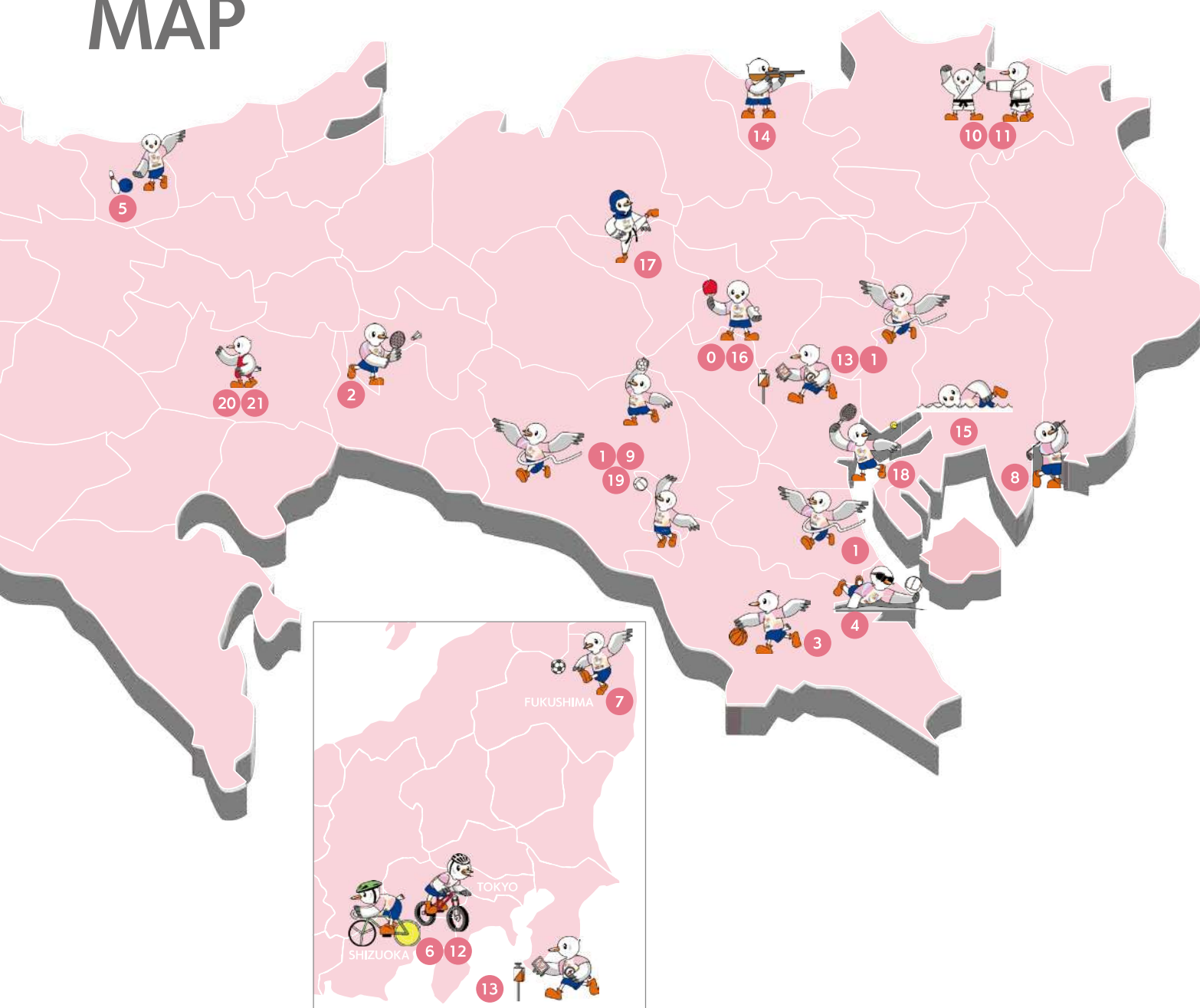
○：予選等 🏆：メダルセッション

	14 (金)	15 (土)	16 (日)	17 (月)	18 (火)	19 (水)	20 (木)	21 (金)	22 (土)	23 (日)	24 (月)	25 (火)
陸上競技				🏆	🏆	🏆	🏆	○	🏆	🏆	🏆	🏆
バドミントン			○	○	○	○	○	🏆		○	○	🏆
バスケットボール			○	○	○	○	○	○	○	○	○	🏆
ビーチバレーボール			○	○	○	○	○	○	○	🏆		
ボウリング				○	○	🏆	🏆	🏆	🏆	🏆	🏆	🏆
自転車競技 (ロード)				🏆	🏆		🏆		🏆			
サッカー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	🏆	🏆
ゴルフ					🏆	🏆	🏆	🏆				
ハンドボール			○	○		○		○		○		🏆
柔道			🏆	🏆	🏆							
空手										🏆	🏆	🏆
自転車競技 (マウンテンバイク)											🏆	🏆
オリエンテーリング		🏆	🏆				🏆	🏆		🏆		
射撃			🏆	🏆	🏆	🏆	🏆	🏆	🏆	🏆	🏆	🏆
水泳							🏆	🏆	🏆	🏆	🏆	🏆
卓球					🏆	🏆	○	🏆		○	🏆	
テコンドー									🏆	🏆	🏆	
テニス			○	○	○	○	○	○	○	🏆	🏆	🏆
バレーボール			○	○	○	○	○		○	○	○	🏆
レスリング (フリースタイル)										○	🏆	
レスリング (グレコローマン)								○	🏆			

競技日程は、日本国内での大会の盛り上げを図るため、他の大規模イベントの日程と重複しない期間、選手がベストパフォーマンスを発揮できる気象条件が整いやすい季節及び期間、多数の観戦・来場が見込める土曜日・日曜日・祝日をより多く含む期間を考慮した上で決定した。



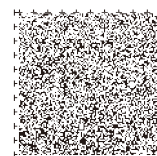
MAP



競技会場は、次の要件を考慮した上で、大会に相応しい21の競技会場及び東京体育館を開閉会式会場として選定した。

- 選手への輸送負担を軽減するため、選手宿舎から概ね1時間以内で移動が可能な競技会場であること
- 大会の持続性を考慮し、新設や仮設の施設整備は行わず、デフリンピック規約（DG26.場所）に規定される施設要件を満たした既存の競技会場を活用すること
- 東京2020大会又は東京1964大会のレガシー施設を活用すること
- 開催都市である東京の魅力を世界に発信し、大会をより多くの観客に楽しんでもらうため、都心のみならず、自然豊かな多摩地域や島しょ部においても開催すること
- サッカーと自転車競技は、国内トップクラスの施設環境がコンパクトに整えられている福島県と静岡県において開催すること

0	開会式／閉会式	東京体育館
1	陸上競技	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場
1	陸上競技 (マラソン)	東京高速道路及び首都高速道路高速八重洲線の一部
1	陸上競技 (ハンマー投)	大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場
2	バドミントン	京王アリーナTOKYO (武蔵野の森総合スポーツプラザ)
3	バスケットボール	大田区総合体育館
4	ビーチバレーボール	大森ふるさとの浜辺公園
5	ボウリング	東大和グランドボウル
6	自転車競技 (ロード)	日本サイクルスポーツセンター
7	サッカー	Jヴィレッジ
8	ゴルフ	若洲ゴルフリンクス
9	ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場
10	柔道	東京武道館
11	空手	東京武道館
12	自転車競技 (マウンテンバイク)	日本サイクルスポーツセンター
13	オリエンテーリング	日比谷公園・日比谷エリア、伊豆大島 (裏砂漠)
14	射撃	味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト
15	水泳	東京アクアティクスセンター
16	卓球	東京体育館
17	テコンドー	中野区立総合体育館
18	テニス	有明テニスの森
19	バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場体育館
20	レスリング (フリースタイル)	府中市立総合体育館
21	レスリング (グレコローマン)	府中市立総合体育館





第1回デフリンピックが開催されてから100年を経過して初めて、そして日本で初開催となる歴史に残る本大会の開会式は、多くの選手団の華やかな行進によってスタートした。選手団をはじめ約6,100人が参加し、きこえない・きこえにくい人、きこえる人、あらゆる垣根を超えてコミュニケーションを楽しみ、ろう者の文化を共有するとともに、世界に東京・日本の魅力を発信する開会式となった。



(左から) 全日本ろうあ連盟理事長による挨拶、東京都知事による挨拶、内閣総理大臣による挨拶、秋篠宮皇嗣殿下によるお言葉、ICSD会長による開会宣言



光のリレー



デフリンピック旗、日本国旗の掲揚



国歌を日本手話言語で表現する
江副悟史氏と斉唱する一青窈氏



J ヴィレッジでのブルーインパルス展示飛行、サテライト開会式





11/17～19, 11/21～24

駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場

スタートの合図を光で知らせるスタートランプを使用した。



11/20

大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場



大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場でハンマー投が行われた



11/25

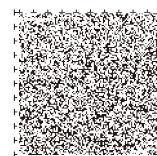
東京高速道路及び首都高速道路高速八重洲線の一部



東京高速道路及び首都高速道路高速八重洲線の一部でマラソンが行われた



選手に声援を送る東京都知事



バドミントン



11/16~25

京王アリーナTOKYO
(武蔵野の森総合スポーツプラザ)

Badminton

選手入場口で担当アンパイアが選手を出迎えるなど、スムーズな選手の集合、入場に向けた対応を行った。



情報保障



バスケットボール



11/16~25

大田区総合体育館

Basketball

審判の笛が鳴ったとき、バスケットボールゴールの支柱やテーブルオフィシャル席の前面に設置したLEDランプを点灯させることで、視覚的な情報により選手が認知できるようにした。



情報保障



ビーチバレーボール



11/16～23

大森ふるさとの浜辺公園

Beach Volleyball

選手がプレーの中断に気付かず競技を続行してしまった場合、審判員がネットを手で揺らして合図を送る等の対応を行った。



情報保障



情報保障

ボウリング



11/17～25

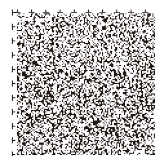
東大和グランドボウル

Bowling

「フラグガー」と呼ばれる審判員が、旗を振りながらアプローチを走り、試合の開始と終了を選手に視覚的に伝達した。



情報保障



自転車競技（ロード）



11/17～22 日本サイクルスポーツセンター
(静岡県)

Cycling Road

スタートやファイナルラップの合図を、フラッグによる視覚的手段を使用して行った。



情報保障



自転車競技（マウンテンバイク）



11/24～25 日本サイクルスポーツセンター
(静岡県)

Mountain Bike

フラッグに加え、スタートランプを使用してスタートの合図を行った。



競技を御覧になる彬子女王殿下

情報保障



サッカー



11/14~25

Jヴィレッジ (福島県)

Football

デフサッカーでは笛以外にフラッグを使用し、視覚的に情報を伝えた。



情報保障



手話表現で拍手を送られる高円宮妃殿下

ゴルフ



11/18~21

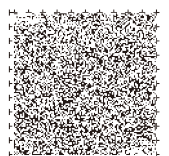
若洲ゴルフリンクス

Golf

各組が競技を開始する、ティーオフ時のスタートコールの場面で、手話言語通訳者を配置した。



情報保障



ハンドボール



11/16～25

駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

Handball

選手がプレーの中断に気付かず競技を続行してしまった場合、レフリーが選手の視界に入る位置に移動して視覚的に知らせる、選手の目を見てジェスチャーを行うなど、適切な対応を行った。



情報保障



東京都デフリンピックチャレンジトライアウトで発掘された選手5名が活躍

射撃



11/16～25

味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト

Shooting

射場長の号令を視覚的に伝えるため、モニターを射座の前方に配置するとともに、関係法令に則ってモニターに跳弾防止カバーを設置して競技を行った。



情報保障



東京都デフリンピックチャレンジトライアウトで発掘された選手が活躍



審判が選手の視界に入る場所に移動し、視覚的に合図を知らせる対応（ジェスチャー、アイコンタクト、肩をたたいて知らせる等）を行った。



競技を御覧になる三笠宮寛仁親王妃信子殿下



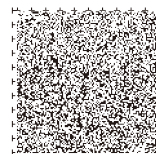
情報保障



コートの四隅に計8本のLEDライトバーを設置し、赤で「やめ」を、青で「あとしばらく」の合図を知らせた。



情報保障





11/15～16

日比谷公園・日比谷エリア

選手のスタートは、視覚的に伝えられるように電光掲示板での時間表示とともにランプの光で合図した。



情報保障



情報保障



11/20～23

伊豆大島（裏砂漠）



選手に拍手を送られる秋篠宮皇嗣妃殿下、悠仁親王殿下



情報保障



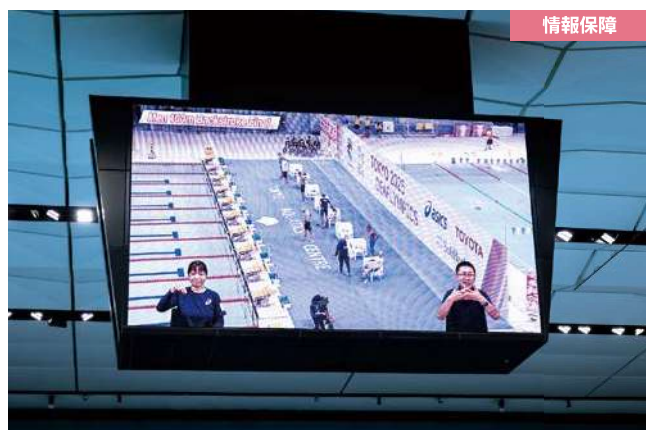
スタート合図を視覚的に伝えるスタートランプを設置した。また、長距離種目において、最終ターンの合図を送るため、審判が周知器具を水中に入れるなどの対応を行った。



競技を御覧になる天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下



選手と御懇談される天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下





試合の進行状況を会場内モニター等に表示し、スムーズな選手の集合、入場に向けた対応を行った。



情報保障



レフリーの動きに合わせてコート四方に設置されたLEDライトバーを点灯させる取組を行った。また、試合開始の合図で「青」、審判制止・試合終了の合図で「赤」を点灯した。



情報保障



東京都デフリンピックチャレンジトライアウトで発掘された選手が活躍



チェアアンパイアが試合を止める合図を選手に分かりやすく伝えるため、「審判用フラッグ」を活用した。



情報保障



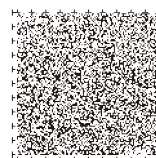
バレーボール



選手がプレーの中断に気付かずに競技を続行してしまった場合、審判がネットを手で揺らして合図を送る、審判がサーブ開始の笛を吹く際は、必ず選手と目を合わせてから吹くなどの対応を行った。



情報保障



レスリング (フリースタイル)



11/23 ~ 24

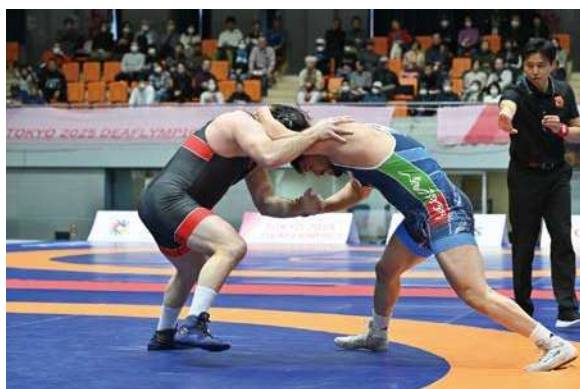
府中市立総合体育館

Wrestling (Freestyle)

試合を中断する際は、審判が両者の身体を叩く、アイコンタクトを取る等の対応を行った。また、試合の進行状況を、選手の待機場所（ウォーミングアップエリアを含む）に設置したモニターに表示し、選手の円滑な集合・入場に向けた対応を行った（他競技でも同様の取組あり）。



情報保障



情報保障

レスリング (グレコローマン)



11/21 ~ 22

府中市立総合体育館

Wrestling (Greco-Roman)



東京都デフリンピックチャレンジトライアウトで発掘された3選手が、フリースタイル・グレコローマンにそれぞれ出場





東京2025デフリンピックの締めくくりとして、選手団など約6,000人が参加し、閉会式を実施した。閉会式では大会への貢献としてICSD会長から東京都知事へ感謝の盾が贈呈された。アーティスティックプログラム「ボン・ミライ!」では、会場全員がひとつになって踊り、12日間の大会が閉幕した。



御臨席される佳子内親王殿下



ICSD会長による閉会宣言



手話狂言・手話歌舞伎


ICSD会長から東京都知事へ
感謝の盾を贈呈

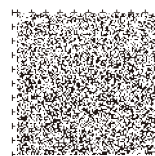

デフリンピック旗の返還



開会式・閉会式を通じて司会進行は国際手話・日本手話言語で行われた



ボランティアによる盛り上げ





11/15～26

国立オリンピック記念青少年総合センター



11月15日から26日にかけて、大会本部機能・文化発信機能を有するデフリンピックスクエアを、国立オリンピック記念青少年総合センターに設置した。子どもから大人まで誰もが楽しめる開かれたスペースで、デフスポーツやろう者の文化への理解を深めるコンテンツをはじめ、ユニバーサルコミュニケーション技術を体験できる企画などが催され、期間中57,168人の来場者で賑わった。



DEAF SPORTS HOUSEを
御視察される秋篠宮皇嗣妃殿下



着付け体験の様子



手話狂言



スタンプラリー企画



デフスポーツ体験



みるTechにおけるUC技術体験



飲料・補食の提供



選手交流ラウンジの様子



カフェスペースの様子

様々なスタッフの参画

Participation of various staff

国際手話通訳者・日本手話言語通訳者

国際手話通訳者100人と日本手話言語通訳者141人が協働し、各競技会場や開閉会式、記者会見など多岐にわたる場面において通訳を行った。



ボランティア

障害のあるなしや年齢、国籍などにかかわらず、2,959人のボランティアが各会場等での案内・誘導をはじめ様々な場面で運営をサポートした。



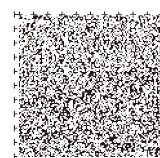
国立大学法人筑波技術大学

筑波技術大学の学生98人が大会サポートスタッフとして参画し、きこえない当事者としての視点を活かし、細やかな対応を行った。



協賛者

協賛者の社員608人が大会サポートスタッフとして大会の運営に参画し、各会場等での案内・誘導をはじめ様々な場面で運営をサポートした。



協賛者による支援

Sponsors

ユニフォーム（株式会社アシックス）

大会スタッフやボランティア等に対し、スポーツウェア、ポーチを支給いただいた。また、手話言語の表現が見やすいよう、国際手話通訳者や日本手話言語通訳者にはダークカラーのウェアを支給いただくなど、情報保障にも配慮したサポートをいただいた。



車両（トヨタ自動車株式会社）

選手や関係者の輸送車両を提供いただくなど、大会運営をサポートいただいた。



SIMカード等（ソフトバンク株式会社）

選手や関係者に対して、スマートフォンやタブレット及びSIMカードの無償提供、端末の利用をサポートするヘルプデスクの設置等のサポートをいただいた。



協賛者による大会時の活動

開会式・閉会式・各競技会場でのブース出展（17会場40者）を実施した。また、デフアスリート雇用企業をはじめ、デフアスリートヘエールを送った。



協賛者によるブース出展
(駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場)



団体応援の様子（バレーボール）



のぼり



会見バックボード



スポンサーロゴボード（陸上競技）

ユニバーサルコミュニケーション(UC)の促進

Universal Communication

競技会場におけるUC技術の活用

全競技会場で透明ディスプレイ等による多言語テキストによる案内、ビジョンやモニター上での場内アナウンスの多言語テキスト表示等を実施した。また、音が見える、音を感じる最新技術を活用し、新しい観戦体験の場を提供した。



タブレットでの案内の様子



多言語でのテキスト表示



通訳者を表示したビジョン



競技音を視覚で楽しめるようにする「ミルオト」



競技フィールドで発生する音を振動で体感できる「Hapbeat」



競技を見ながらテキスト化した競技解説等がみられる「スマートグラス」

みるTech

デフリンピックスクエアにおいて、スタートアップ企業等と連携し、UC技術等を体感できる「みるTech」を開催した。約3.6万人が来場した。



手話言語をテキストに変換する「Sure Talk」



きこえない・きこえにくいを体感「Deaf VR」

オールウェルカムTOKYO (デフ・スペシャル)

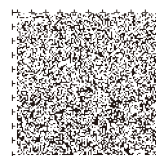
大会期間を中心に、民間企業とも連携し、手話言語やUC技術等、多様な手段できこえない人・きこえにくい人へのおもてなしを展開した。



日本手話言語通訳付きの動物解説ガイド



選手宿泊ホテルでの「Sure Talk」活用



サインエール

Cheer Signs

サインエール

日本の手話言語をベースに視覚的な動きでデフアスリートに応援を伝える新しい応援スタイル。複数の競技会場に応援団を派遣し、きこえる人ときこえない人が一体となって応援することで、選手の活躍を後押しした。



会場でのサインエールの様子

子どもの参画

Watching the games and Experiential Activity Project

子供観戦

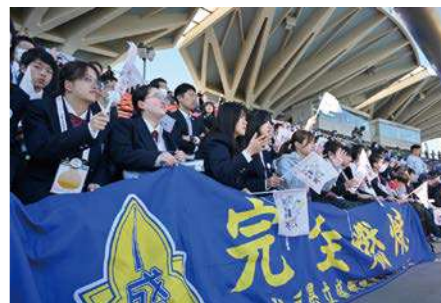
各会場での競技観戦及びデフリンピックスクエアでの体験活動を実施し、都内438校・45,725人（引率者含む）が参加した。あわせて、事前に資料を配布し、各学校において事前の学習から参加後の振り返りを実施した。また、全国のろう学校から18校・765人（引率者含む）が競技観戦に参加したほか、被災地（岩手県、宮城県、福島県及び石川県）の子どもたち136人（引率者含む）も招待した。



観戦の様子



応援ボードを掲げる子どもたち



観戦の様子

エスコートキッズ・ハイトッチキッズ、表彰式のトレイベアラー

ろう学校の子どもたちが、エスコートキッズやハイトッチキッズ、表彰式での副賞トレイベアラーとして大会に参画する機会を創出した。都内の全てのろう学校や被災地である石川県のろう学校などから、エスコートキッズ・ハイトッチキッズには245人、トレイベアラーには44人、計289人の子どもたちが参加した。



ハイトッチキッズの様子（卓球）



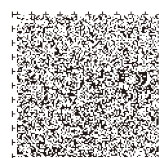
エスコートキッズの様子（ハンドボール）



トレイベアラーの様子（空手）

選手の様子

Athletes outside the Competition Venues



参加国・地域 / 獲得メダル数一覧

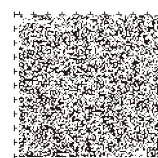
List of participating countries and regions / MEDAL TABLE

国・地域				計
アルジェリア Algeria	0	4	1	5
アルゼンチン Argentina	0	0	1	1
アルメニア Armenia	0	1	3	4
オーストラリア Australia	1	2	0	3
オーストリア Austria	0	1	2	3
アゼルバイジャン Azerbaijan	0	1	0	1
バーレーン Bahrain	0	0	0	0
ベルギー Belgium	0	0	1	1
ブラジル Brazil	1	0	0	1
ブルガリア Bulgaria	0	0	1	1
カナダ Canada	1	0	1	2
チリ Chile	0	0	0	0
中華人民共和国 People's Republic of China	12	16	22	50
コロンビア Colombia	1	1	5	7
コートジボワール Côte d'Ivoire	0	0	0	0
クロアチア Croatia	4	0	5	9
キューバ Cuba	1	1	1	3
キプロス Cyprus	0	0	1	1
チェコ共和国 Czech Republic	2	1	2	5
デンマーク Denmark	0	0	0	0
エクアドル Ecuador	1	0	1	2

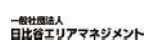
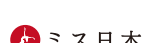
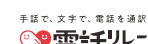
国・地域				計
エストニア Estonia	3	0	0	3
フィンランド Finland	1	1	0	2
フランス France	4	2	3	9
ガボン Gabon	0	0	0	0
ドイツ Germany	6	8	10	24
英国 Great Britain	5	3	4	12
ギリシャ Greece	1	1	2	4
ホンコン・チャイナ Hong Kong, China	0	0	1	1
ハンガリー Hungary	1	7	5	13
インド India	9	7	4	20
イラン・イスラム共和国 Islamic Republic of Iran	8	10	19	37
イラク Iraq	0	0	0	0
アイルランド Ireland	0	0	0	0
イスラエル Israel	0	1	0	1
イタリア Italy	8	8	5	21
日本 Japan	16	12	23	51
カザフスタン Kazakhstan	8	4	13	25
ケニア Kenya	5	6	4	15
大韓民国 Republic of Korea	11	13	19	43
キルギス Kyrgyzstan	2	0	4	6
ラトビア Latvia	0	1	2	3

国・地域				計
レバノン Lebanon	0	0	0	0
リトアニア Lithuania	3	4	3	10
マカオ・チャイナ Macau, China	1	0	0	1
北マケドニア North Macedonia	0	0	0	0
マレーシア Malaysia	1	2	1	4
マリ Mali	0	0	0	0
マルタ Malta	0	0	0	0
モーリシャス Mauritius	0	0	0	0
メキシコ Mexico	2	2	1	5
モンゴル Mongolia	0	0	2	2
モザンビーク Mozambique	0	0	0	0
ナミビア Namibia	0	0	0	0
ネパール Nepal	0	0	0	0
オランダ Netherlands	0	1	0	1
ノルウェー Norway	0	0	0	0
フィリピン Philippines	0	0	1	1
ポーランド Poland	0	5	14	19
ポルトガル Portugal	3	2	1	6
サウジアラビア Saudi Arabia	0	0	0	0
セルビア Serbia	0	0	0	0
シンガポール Singapore	0	0	0	0

国・地域				計
スロバキア Slovakia	1	0	0	1
スロベニア Slovenia	0	0	3	3
南アフリカ South Africa	0	0	0	0
スウェーデン Sweden	1	4	2	7
スイス Switzerland	0	0	0	0
チャイニーズ・タイペイ Chinese Taipei	1	6	6	13
タイ Thailand	0	0	1	1
トルコ Turkiye	2	8	16	26
ウクライナ Ukraine	32	39	29	100
アラブ首長国連邦 United Arab Emirates	0	0	0	0
アメリカ合衆国 United States of America	17	7	12	36
ウズベキスタン Uzbekistan	1	4	4	9
ベネズエラ Venezuela	0	1	4	5
ザンビア Zambia	0	0	0	0



トータルサポートメンバー



● ● ● ● ● ゲームズサポートメンバー ● ● ● ● ●

住友電設株式会社	株式会社ニシ・スポーツ	ヨネックス株式会社
株式会社モリタ製作所		
太平電業株式会社	東京パワーテクノロジー株式会社	清水建設株式会社
一般社団法人日本スポーツ歯科医学会		
ライフネット生命保険株式会社	山崎製パン株式会社	サノフィ株式会社
A K コーポレーション株式会社	みずほ信託銀行株式会社	伊豆箱根鉄道株式会社
メリダジャパン株式会社	株式会社ポピンズエデュケア	大東紡エスレート株式会社
株式会社キャスト・ワークス	株式会社ティーケーラボ	えびすや土産店
株式会社カインズ	CCCCMKホールディングス株式会社	株式会社リコー
株式会社鼓月	株式会社岩手リオン補聴器センター	日機通商株式会社
株式会社マルズ	戸田ビルパートナーズ株式会社	SBI損害保険株式会社
東京都農業協同組合中央会	株式会社キザシオ	株式会社エムゴールド
東京ボウリング場協会	株式会社小糸製作所	Hapbeat合同会社
株式会社方角	平林金属株式会社	株式会社CCHサウンド
株式会社アイエスゲート	ベーカー&マッケンジー法律事務所 (外国法共同事業)	株式会社コヤマドライビングスクール
合同会社StudioKAI	祥恵株式会社	When I was young株式会社
株式会社グランバー東京ラスク	サントリーホールディングス株式会社	株式会社ArtSpaceDragonFly
株式会社日立製作所	東急リバブル株式会社	株式会社ハイレゾ
株式会社NTTコノキュー	コンパスグループ・ジャパン株式会社	

● ● ● ● ● みるTechサポートメンバー ● ● ● ● ●

株式会社オリィ研究所	サイナーズ株式会社	一般社団法人ハートウェアラボ
Insta Chord 株式会社	ハロームービー株式会社	株式会社POCKET RD
株式会社オンテローブ	株式会社スマートスタート	株式会社ロジシティ
Hapbeat合同会社	一般社団法人日本eスポーツ協会	株式会社EG
LiNKX株式会社	株式会社日伸	タクタス
クラスター株式会社	ソニーグループ株式会社	株式会社meleap
SoundUDコンソーシアム (事務局：ヤマハ株式会社)	株式会社シー・エヌ・エス	株式会社ラディックス

